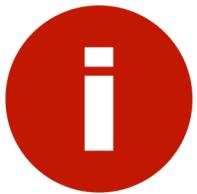


AISIで 一緒に未来をつくりませんか

AISI採用、出向ガイド



AI Safety Institute : AISIとは

2024年2月に設立された政府横断でAIセーフティを推進する機関です。

社会のあらゆる活動でAIが活用されています。しかも、その技術は日々進歩しています。これらの技術を活用し豊かな社会を実現するとともに、競争力のある技術開発を推進するためには、その基盤となる安全性が重要になります。安全性が確保されているからこそ安心してAIを活用したり、技術開発を進めていくことができるようになります。

また、AIのサービスは瞬時にグローバル展開可能です。そのため、グローバルな情報共有やルールメイキングが必要になります。

こうした状況に個社で対応することは困難であり、各国にAISIまたは類似の機関が設立されています。そして国際連携が図られています。

AISIは、AIセーフティを実現することを通じて社会全体のイノベーションやトランスフォーメーションを目指しています。そのため以下のような活動を行っています。

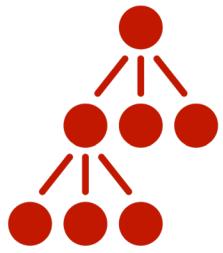
- ・政府機関への助言
- ・社会全体へのAIセーフティの啓発
- ・情報収集と情報提供
- ・ガイドラインやツールの策定
- ・評価やセキュリティなど技術的な検討
- ・国際機関、各国との調整、国際標準化

組織の特徴としては、

- ・技術や社会変化に対応したスピード
 - ・AIの技術・制度を取り巻く不確実な状況への対応
 - ・多様なグローバル調整
 - ・産官学一体となった推進
- が特徴です。

技術開発、サービス開発の最前線もエキサイティングですが、その現場を支える基盤つくりは、高い使命感のある仕事です。

皆さんも、この未知の航海に挑戦してみませんか



AISIの組織

AISIは、12の府省庁と5つの政府関係機関が参加する機関で、その意思決定のもとで事務局が中核となり取り組みを進めています。

AISI

【関係府省庁】

- ・内閣府
(科学技術・イノベーション推進事務局)
- ・内閣官房
(国家安全保障局・国家サイバー統括室)
- ・警察庁
- ・デジタル庁
- ・総務省
- ・外務省
- ・文部科学省
- ・厚生労働省
- ・農林水産省
- ・経済産業省
- ・国土交通省
- ・防衛省

所長

AISI事務局

- ・戦略企画チーム
- ・フレームワークチーム
- ・技術チーム
- ・利活用チーム
- ・セキュリティチーム
- ・国際チーム
- ・標準チーム

ワーキンググループなど

- ・ロボティクス
- ・ヘルスケア
- ・データ品質
- ・適合性評価

など

【関係機関】

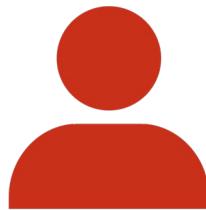
- ・情報処理推進機構 (IPA)
- ・情報通信研究機構
- ・理化学研究所
- ・国立情報学研究所
- ・産業技術総合研究所

エグゼクティブチーム

所長 村上明子：IBMにてAI研究者、AI製品責任者を経て、損保ジャパンへ転職。
現在同社にて執行役員チーフデータオフィサー (AISIと兼任)

副所長 平本健二：政府CIO上席補佐官、デジタル庁データ戦略統括を経て、
事務局長 IPAデジタル基盤センター長 (AISIと兼任)

副所長 西村卓：総務省、在シドニー日本国総領事館、内閣府（医療データ活用
担当）を経て現職（専任）



AISIの求める人材

これまでの知識と経験を生かして社会つくりをしたい人

AISIは、AIに関する知識や経験のある人材を中核人材として募集しています。専門分野の深堀、チームの取りまとめ、講演などによる普及、国際調整で活躍いただきます。

これまでの経験を生かして、個々の組織ではなく、短期、また、中長期の視点で社会全体の改革を図っていきます。

最先端のフィールドでキャリアアップしたい人

AIに興味がありこの分野にチャレンジしたい人、すでにキャリアはあるけれども、AISIで多様な人と働き、プロジェクトを推進する中でキャリアアップを目指したい人に、担当した業務を中心にグローバルレベルの活動をしていただきます。

グローバルに通用する成果を実績として積み、経験することを目指していきます。（AISIは成果重視の組織です）

AISI共通スキル（スキル標準でLv.3-6程度）

- ・英語力（TOEIC730点以上（最低限読むのが苦ではない人））
- ・AI技術、セーフティ、ガバナンスなどに関する基礎知識
- ・デジタル技術の基礎知識
- ・リスク管理、セキュリティに関する基礎知識
- ・ガイドラインや教材などのドキュメンテーション力

AISI共通人材像

- ・AI技術や社会の変化を前提に、不確実性の中で考え、行動できる人
- ・自身の専門分野を持ちながら、分野や組織、国境を越えて協働できる人
- ・AIのリスクと価値の両方を理解し、安全性をイノベーションの基盤として捉えられる人
- ・前例のない課題に対し、問い合わせを立て、検証し、改善し続けられる人
- ・社会全体の信頼を支えるという高い使命感と公共性を持って仕事に向き合える人



戦略・企画チーム

チームのミッション

戦略・企画チームは、AISI全体の方向性と優先順位を設計し、AIセーフティの取り組みを組織として機能させる中枢です。

技術、制度、国際動向を俯瞰しながら、AISIの活動を戦略的に推進します。

業務全体像

戦略・企画チームは、AISI全体の取りまとめを担います。

国内外の動向や各チームの活動状況を踏まえ、AISIとして取り組むべきテーマのポートフォリオを設計し、組織横断での連携・調整を行います。また、予算管理、国際連携、広報など、AISI全体に関わる基盤的な業務も担い、組織が継続的かつ機動的に活動できる体制を支えています。

主な業務

- 府省庁など関係機関との戦略調整、予算調整
- AISI全体のプロジェクト管理・進捗管理・タレント管理
- 各チームの活動状況・成果の集約と分析
- 社会・技術動向を踏まえた戦略の企画・見直し
- 国内外の関連機関との意見交換・連携調整
- AISIの対外発信（広報・説明資料作成等）

これまでの主な成果

- AISIの組織体制・運営基盤の整備
- 国際的なAIセーフティネットワークへの参画・連携構築

求められるスキル・資質

- 複雑な状況を整理し、意思決定につなげる力
- 政府の制度・意思決定プロセスに関する理解
- 多様な関係者との調整・合意形成能力
- アーキテクチャ思考・全体最適の視点
- 国際的な議論に対応できるコミュニケーション力
- 組織・人材マネジメントに関する基礎的な知識

想定されるバックグラウンド

- 行政機関からの出向者、行政機関OB
- シンクタンク、コンサルティング（AI・政策・戦略分野）
- 国際機関・業界団体での企画・調整業務経験者など

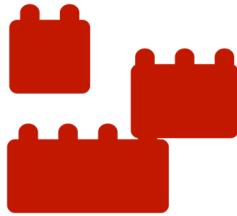
身に付けられる知識・経験

- 最先端の行政における戦略立案・実行の実務経験
- AIという急速に進化する分野における政策形成プロセス
- 国際調整・国際ルール形成の実践的な経験
- 技術・政策・社会を俯瞰する視座と構想力

このチームで働く魅力

前例のないAIセーフティの取り組みを、戦略の中枢として形にしていく仕事です。

社会全体に影響する意思決定に関わりながら、AI時代の新しい公共基盤づくりに挑戦できます。



フレームワークチーム

チームのミッション

フレームワークチームは、AIセーフティを社会全体で実装するための**共通の考え方・指針・枠組み（フレームワーク）を設計・発信するチーム**です。急速に進化するAI技術に対して、産業・組織・分野を越えて活用できる「よりどころ」を社会に提供します。

業務全体像

フレームワークチームは、AIセーフティを実現するための**分野横断的なガイドラインやフレームワークの企画・作成・普及**を担います。AI事業者ガイドラインの更新、社会AIガバナンスのひな型、CAIO（Chief AI Officer）のためのガイドの策定などを通じて、企業・行政・社会がAIを安全に活用するための実践的な指針を整備します。また、産業分野別のガイドライン動向の収集や、関係機関・企業による取り組みの支援も行い、フレームワークが「作って終わり」にならないよう社会実装を推進します。

主な業務

- AIガイドライン・フレームワークに関する国内外の情報収集
- 國際的な議論・枠組み（各国ガイドライン、国際標準等）への参加
- フレームワーク・ガイドラインの企画、ドキュメンテーション
- 関係機関・産業界への普及・説明、活用支援
- 他のガイドラインや制度との整理・対応関係（マッピング）の整理

これまでの主な成果

- 日米AIガイドラインのクロスウォーク作成
- AI事業者ガイドラインの更新への参画・貢献

求められるスキル・資質

- 国内外におけるAI関連フレームワーク・ガイドラインの知識
- リスク管理・AIガバナンスに関する基礎的理解
- 多岐にわたる取り組みを整理し、分かりやすく構造化、ドキュメント化する能力
- 異なるガイドライン・制度間の対応関係を整理する能力
- 多様な関係者と議論し、合意形成を進めるコミュニケーション力

想定されるバックグラウンド

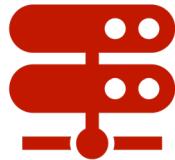
- 事業会社におけるAI活用・AIガバナンス担当者
- シンクタンク、コンサルティング会社のAI・デジタル分野担当
- 業界団体や標準化活動に関わった経験を持つ方など

身に付けられる知識・経験

- AIセーフティ・AIガバナンスに関する幅広く体系的な知識
- 企業・産業におけるAI活用事例やインシデント、対策に関する理解
- 技術・制度・社会動向を横断的に整理する力
- 国際調整・国際ルール形成の実践的な経験

このチームで働く魅力

フレームワークチームの仕事は、AI時代の「共通言語」や「社会のルールブック」を形にする仕事です。個別の技術やサービスを超えて、社会全体のAI活用を支える基盤づくりに関わることができます。



技術チーム

チームのミッション

技術チームは、AIセーフティに関する技術的な知見を収集・体系化し、評価・検証という形で社会実装につなげる中核チームです。急速に進化するAI技術に対し、「何を、どのように評価すべきか」を技術面から明らかにします。

業務全体像

技術チームは、AIセーフティに関する最新の技術動向を継続的に収集・整理し、それらを体系化したうえで、技術的なガイドやツールの作成・発信を行います。今後は、AIモデルの評価環境の整備やベンチマークの実施、AIエージェントなど新たな技術領域に関する情報集約・技術評価にも取り組み、AISIにおける技術的検証の基盤を構築していきます。

主な業務

- AIセーフティ関連技術情報の収集・分析・体系化
- AIおよびAIセーフティに関する開発・評価、AI開発・評価環境の整備
- 評価の観点ガイド（評価指標・評価手法）、環境の整備
- ベンチマーク設計・実施
- レッドチーミングに関する技術ガイドの整備、
- AIセーフティの評価や強化のための新規ツール開発、既存OSS機能強化

これまでの主な成果

- AIセーフティに関する技術マップ
- 評価の観点ガイドの策定および評価環境
- レッドチーミング手法ガイドの作成と関連ツール

求められるスキル・資質

- AIに関する技術開発の知識や実務経験
- AIの性能評価・安全性評価に関する手法の理解
- リスク管理・AIガバナンスに関する基礎的理解
- 技術情報を整理し、分かりやすく構造化ドキュメント化する能力
- 様々な組織の持つ技術を俯瞰し整理するプロデュース力

想定されるバックグラウンド

- AI開発企業、AI技術支援企業スタートアップにおける技術担当者
- AI研究者（大学・研究機関・企業研究所）
- セキュリティや評価分野の実務経験者など

身に付けられる知識・経験

- 生成セーフティに関する多様な技術的アプローチを評価・検証する実務経験
- 海外における最新のAI評価・安全性研究の動向理解
- AI・AIエージェントに関する安全性評価の実務経験
- 国際調整・国際ルール形成の実務経験

このチームで働く魅力

技術チームでは、「評価できないものは、安全だと言えない」という立場から、AIセーフティの技術的基盤を一から構築していきます。最先端の技術に触れながら、社会全体のAI活用を支える“評価のものさし”を作る、非常にチャレンジングで意義のある仕事です。国立研究所の研究者やAI開発・提供を担う事業者の開発担当者との連携を密に行っており、最先端の情報にキャッチアップできる環境があります。



利活用チーム

チームのミッション

利活用チームは、AIを実際の社会・産業・現場で安全に使いこなすための知見と実践モデルを創出するチームです。具体的な利用シーンを起点に、リスクを見極め、評価し、「どうすれば安全に使えるのか」を現実的な形で示します。

業務全体像

利活用チームは、AIの利活用シーンごとに想定される**リスクシナリオの整理、評価観点の検討、データセットや教材の整備**や教材の整備、その実証を通じて、AIを安全に利活用するための環境整備を行います。ヘルスケア、ロボティクスなどの分野別の応用ケースを対象に、実証的な検討を進めるとともに、今後は**フィジカルAI（実世界に作用するAI）**の利活用モデルについても検討を深めていきます。また、AIの安全性を左右する共通基盤として、利活用文脈に即したデータ品質の在り方を重要な検討対象のひとつとしています。

主な業務

- 事業実証ワーキンググループの企画・運営
- 応用領域のAI利用シーンにおけるリスクシナリオの整理・分析
- 利活用における評価観点・チェックポイントの整理
- フィジカルAI領域における利活用モデル・ユースケースの検討
- データ品質管理手法・データマネジメント手法の検討
- 利活用促進に向けた教材・解説資料の作成

これまでの主な成果

- 事業実証ワーキンググループの設置・運営
- データ品質管理ガイドブック

求められるスキル・資質

- AIモデル、セキュリティ、リスク、ガバナンスに関する基礎的理解
- ヘルスケア、ロボティクス等のドメイン知識やデータ管理などの共通知識
- 実務知見を整理し、分かりやすく伝えるドキュメンテーション力
- 異なる立場の関係者と議論し、整理するコミュニケーション力

想定されるバックグラウンド

- AI開発企業・事業会社におけるAI活用担当者
- AI研究者（応用・社会実装分野）
- 業界横断の実証事業やPoCに関わった経験を持つ方など

身に付けられる知識・経験

- AIを実社会で利活用する際の安全性確保手法
- 分野別（ヘルスケア、ロボティクス、フィジカル等）のAIリスク特性の理解
- データ品質・データガバナンスの実践的知識
- 新しいAI応用領域への適用方法、経験
- 国際調整・国際ルール形成の実践的な経験

このチームで働く魅力

利活用チームでは、「AIは現場でどう使われ、どんなリスクが生じるのか」を最前線で考え、形にしていきます。実際のユースケースに対して、議論だけではなく実証を通じてAIセーフティを具現化し、「使えるAIセーフティ」を社会に実装する、非常に実践的で手応えのある仕事です。



セキュリティチーム

チームのミッション

セキュリティチームは、AIシステムに内在するセキュリティ上のリスクや脅威を調査・分析し、社会が安心してAIを活用できるための知見を提供するチームです。攻撃を行うこと自体が目的ではなく、脅威を正しく理解し、備えるための基盤をつくることを使命としています。

業務全体像

セキュリティチームは、AIシステムやAIサービスに対するセキュリティリスクや攻撃手法、耐性の状況を調査・分析し、その結果をレポートやガイドとして社会に還元します。AIモデルそのもののへの攻撃だけでなく、データ、API、運用プロセス、サプライチェーンを含めたAIシステム全体を対象としたセキュリティの観点から検討を行います。こうした調査結果は、技術チームによる評価・検証、フレームワークチームによるガイドライン策定、利活用チームによる応用検討とも連携し、AISI全体のAIセーフティ活動を支える重要な基盤となります。

主な業務

- AIシステムに関するセキュリティ脅威・新たな攻撃手法・攻撃動向の調査
- AIモデル・データ・API・運用を含む脅威シナリオの整理
- セキュリティ観点からのAIリスク整理・評価
- AIセキュリティに関する検証環境の構築・運用、AIシステムの脆弱性検証・評価・対策

これまでの主な成果

- AIセキュリティに関する調査レポートの作成・公表
- 新たなAIセキュリティ脅威・論点の整理と発信

求められるスキル・資質

- AIモデル（機械学習・生成AI、AIエージェント等）に関する理解
- サイバーセキュリティに関する脅威・攻撃手法の理解と実務経験
- リスク分析・リスク評価の基礎的スキル
- 技術的内容を整理し、レポートとしてまとめる能力
- 不確実な事象を整理し、客観的に説明する力
- 検証環境の構築などのためのプロジェクトマネジメントのスキル

想定されるバックグラウンド

- セキュリティエンジニア、セキュリティアナリスト、セキュリティ研究者
- リスク分析の経験者、セキュリティコンサルティングや評価業務経験者など

身に付けられる知識・経験

- AIシステムのセキュリティリスクに関する体系的理解、評価・調査スキル
- 新技術に対する脅威、対策の分析経験
- AIセキュリティ研究・政策動向の理解と社会に還元するレポートティング能力
- 国際調整・国際ルール形成の実践的な経験

このチームで働く魅力

セキュリティチームでは、「見えにくいリスク」を可視化し、社会に共有する役割を担います。最先端のAI技術とセキュリティの交差点で、社会全体の信頼を支える知的基盤を構築する、責任とやりがいの大きな仕事です。



標準チーム

チームのミッション

標準チームは、AIセーフティを国際的に共有可能な「共通ルール」「共通のものさし」として定義し、社会に定着させることを使命とするチームです。国際標準を通じて、AIの安全性と信頼性をグローバルに担保する仕組みづくりを担います。

業務全体像

標準チームは、ISO/IEC JTC 1/SC 42を中心としたAI関連の国際標準化活動に参画し、AIセーフティに関する標準の策定・解釈・活用の検討を行います。特に、**AIマネジメントシステム認証（例：ISO/IEC 42001）**と、**AIプロダクト／サービスの評価・認証を組み合わせた「ジョイントサーティフィケーション（Joint Certification）」**の仕組みについて、国内外の関係者と連携しながら検討を進めています。また、ISOに限らず、IEC、IEEE、ETSI、NIST等、関連する標準・ガイドライン・評価スキームの動向を継続的にウォッチし、AISIの活動に反映します。

主な業務

- ・国際標準化団体・関連標準の調査・分析・整理と参画
- ・マネジメント認証とプロダクト認証を組み合わせるなど新たな枠組み検討
- ・標準とガイドライン・評価・実務との対応関係の整理
- ・国内関係機関（認証機関、評価機関、業界団体等）との調整
- ・AIにおける適合性評価の在り方の検討

これまでの主な成果

- ・ISO/IEC JTC 1/SC 42におけるAIセーフティ関連議論への参画。JISの制定
- ・AIマネジメント認証とプロダクト評価の連携等の適合性評価の検討とWG設置

求められるスキル・資質

- ・国際標準（ISO/IEC等）に関する基礎的理解
- ・AI・AIセーフティ・AIガバナンスに関する技術的、制度的知識
- ・マネジメントシステム認証・適合性評価に関する理解
- ・技術・制度・運用を横断的に整理する能力
- ・多様な利害関係者との調整・合意形成能力

想定されるバックグラウンド

- ・標準化活動（ISO/IEC等）に関与した経験者
- ・認証機関・評価機関・検査機関での実務経験者
- ・事業会社における品質管理・ガバナンス・標準対応担当
- ・ITシステムの開発やシンクタンク、コンサル会社での制度設計の経験者など

身に付けられる知識・経験

- ・国際標準化、国際的な信頼構築メカニズムの国際調整、ルール形成の実務経験
- ・マネジメント認証・プロダクト認証の仕組みと実装知識
- ・各国の制度・標準の違いを踏まえた調整力

このチームで働く魅力

標準チームの仕事は、**AIセーフティを「理念」から「国際的に通用する仕組み」へと昇華させる仕事**です。認証や標準という形で信頼を可視化することで、AIの安全な普及と国際競争力の両立に貢献できます。



国際チーム

チームのミッション

国際チームは、AIセーフティを一国の取り組みに閉じることなく、国際的に共有・実装するための連携を推進するチームです。各国のAI Safety Instituteや政府、企業、NPOなどと協働し、グローバルな信頼と共通理解の形成を担います。

業務全体像

国際チームは、AISIの活動を国際的な文脈に位置づけ、**各国・国際機関・民間セクターとの継続的な対話と協働**を通じて、AIセーフティに関する知見や実践を共有・発展させます。AISI国際ネットワークへ参加、貢献するとともに、複数国が参加するジョイントテストや共同検討に参画し、評価・セキュリティ・ガバナンスといった分野での実務的な連携を推進しています。また、各国の政府機関や研究機関、企業やNPOなど、多様な立場を踏まえたAIセーフティの国際的な実装を目指します。

主な業務

- 海外のAIセーフティ動向・政策・技術情報の収集
- AISI国際ネットワークの設立・運営・拡充
- 各国AISI・政府機関、企業・NPO・研究機関との国際的との連携・調整
- 国際会議や他国との共同活動への参画
- AISI内各チームへの国際動向のフィードバック

これまでの主な成果

- 各国と連携したAISI国際ネットワークの共同設立
- 複数国が参加するAIセーフティに関するジョイントテストへの参画
- 国際的なAIセーフティ議論における日本のプレゼンス強化

求められるスキル・資質

- 国際的な調整・協働に関する経験または関心
- 異なる文化・制度・立場を理解し調整する力
- 技術・政策・標準などを横断して理解する姿勢
- 不確実な状況でも対話を継続できる柔軟性

想定されるバックグラウンド

- 国際業務・国際プロジェクトに携わった経験者
- 官公庁、国際機関、研究機関、NPO、業界団体での対外調整経験者
- グローバル企業での渉外・政策対応担当など

身に付けられる知識・経験

- 各国のAI政策・制度・技術動向に関する理解
- AIセーフティに関する国際的な議論・実務の最前線を経験
- 技術・ガバナンス・標準を横断した国際調整能力
- 国際調整・国際ルール形成の実践的な経験

このチームで働く魅力

国際チームでは、AIセーフティを「世界共通の課題」として前に進める役割を担います。国や組織の違いを越えて信頼を築き、実践的な協働を通じてAIセーフティを形にしていく、非常にダイナミックで影響力の大きな仕事です。



民間・研究機関からAISIに来るという選択

AISIで働く意義

民間企業や研究機関では、個別の製品、サービス、研究テーマに深く関わることができます。一方でAISIは、**それらすべての活動を支える「社会全体の基盤」を設計する立場**にあります。AIが社会のあらゆる領域で使われる時代において、安全性や信頼性は、特定の企業や研究分野だけで完結するものではありません。AISIでは、**技術・制度・社会を横断した視点**から、AIセーフティを公共的なインフラとして構築していきます。

AISIで働く魅力

AISIの魅力は、最先端のAI技術に触れながら、その**影響範囲の広さと社会的意義を実感できる点**にあります。

- 単一の製品や研究テーマではなく、**社会全体に共通する課題**に向き合えること。
- 技術、セキュリティ、ガバナンス、標準、国際連携が**一つの組織の中で有機的につながっていること**。
- 国内外の政府、研究機関、企業、NPOと協働しながら、**グローバルなAIセーフティの議論と実装の最前線**に関われること。

こうした環境は、民間や研究の現場とは異なる知的刺激と成長機会を提供します。

AISIで得られる経験と成長

AISIでは、専門分野を深めると同時に、「越境する力」を身に付けることができます。**技術者**は、技術評価やセキュリティだけでなく、ガイドライン、標準、国際連携といった領域に触れることができます。**研究者**は、理論や実験成果が、実際の政策や社会実装にどうつながるかを体験できます。**実務者**は、自身の知見が**社会全体のルールや仕組みとして結実するプロセス**に関われます。これらは、民間や研究機関だけでは得がたい貴重な経験です。

キャリアパスの可能性

AISIでの経験は、その後のキャリアの選択肢を大きく広げます。

・民間企業への転身（出向企業への復帰含む）

AIガバナンス、AIセキュリティ、AI評価の専門人材として、経営層や中核人材として活躍する道

・研究機関・大学での活動

社会実装や政策と接続した研究を推進する立場への展開

・国際機関・標準化活動への展開

国際的なAIセーフティや標準化の専門家としてのキャリア

・官民連携・エコシステム構築の中核人材

政府と民間、国内と海外をつなぐ役割

AISIは、「ゴール」ではなく「次のステージにつながるハブ」を目指しています。

未知の航海へ

AIは、これから社会を形作る重要な技術です。その可能性を最大限に活かすためには、安心して使える「土台」が欠かせません。AISIは、その土台を**世界とともに創り上げる**ための場所です。民間や研究機関で培った知見を持ち寄り、新しい公共基盤づくりに挑戦してみませんか。



出向、専門委員、WGによる参加

出向

出向元組織とIPAで出向契約を行い、IPA所定の給与を企業に対し支払います

- **常勤出向**

基本パターンであり、AISIの中核メンバーとして活躍していただきます

月1回は帰社日を設け、自社への報告兼ニーズを収集する機会を設けています

- **非常勤出向**

専門性の高い人材の場合は、非常勤で週2、3日の参加するパターンも可能です。

出向企業にとってのメリット

- 世界トップレベルの多様な人材と働くことで出向者の能力を伸ばすことができます。
- アクセス可能な情報のうち、守秘義務に抵触しない範囲で最新情報や動向を共有できます。
- 社会基盤として必要な環境整備を、提案することができます。（ただし実施するかはAISI内で精査します）
- 自社セミナー講師などの依頼を優先的に検討します。

※なお、直接関与しているPJ以外には、入札制限はかかりません

専門委員

- 高度な専門性を持つ個人に対して専門委員を委嘱することができます。（時間単位の給与体系になります）

WGなどのアクティビティへの参加

- ボランタリーな無償での参加になります。



FAQ

Q：行政機関なのでしょうか

A：AISIは政府横断の機関となります。実態としての事務局は情報処理推進機構内に置かれています。

Q：身分はどのような形なのでしょうか

A：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）の内部に事務局がありますので、IPA職員になります。

Q：行政機関の働き方がイメージできないのですが

A：民間企業と大きく変わりません。ただし、行政機関としての透明性や公平性の観点から調達や事務処理が大きく異なります。

Q：国際業務は必ず参加できるのでしょうか

A：業務によって異なります。各チームともに国際業務は行っています。適性や役割に応じてweb会議や出張へ参加いただきます。

Q：出向、兼務、副業の場合、自社の調達への参加することに影響がありますか。

A：担当業務への入札はできませんが、それ以外の業務には参加可能です。

Q：テレワークはできますか

A：多様な人材が集まる組織ですので、原則、出勤にしていますが、個人の事情や業務によりテレワークを可能としています。遠隔勤務など特段の事情がある場合には、ご相談ください。

AISI Fact Sheet(2026-12-26)

職員数35人（内フルタイム職員数20人）